



こちら駐在所です

占冠駐在所 (56) 2110

「体力や技術の過信事故のもと」夏山遭難を防止しよう

(1) 無理のない計画を立て登山計画書を提出しましょう

登山技術、体力、経験に応じた山を選ぶなど無理のない計画を立て、登山計画書を作成して、家族や職場等に渡すほか、最寄りの警察署または交番・駐在所に提出しましょう。

(2) 複数人による登山を心がけましょう

事故の遭遇時に対応できるよう、経験豊富なリーダー等と一緒に登山しましょう。

(3) 万全の装備と余裕ある食料等を準備しましょう

登山時の装備不備や食料不足が最悪の事態を招くおそれがあります。

急激な天候の変化にも耐えることができる十分な装備と、停滞時に備えた食料や燃料等を準備しましょう。

(4) 携帯電話を持ちましょう

万一の遭難に備え、携帯電話を必ず持ちましょう。

(5) 気象情報の確認をしましょう

入山前には必ず天気予報を確認し、天候の悪化が予想される場合は、登山を中止しましょう。

また、途中で天候が悪化した場合は、すぐに引き返すなど安全な登山に努めましょう。



地域とともに

コミュニティ・スクール情報
～占冠中学校～

占冠村教育委員会 (56) 2182

生きる力を育む

占冠中学校と中央小学校が、施設分離型小中一貫校となり、4年目に入りました。年度初めには、小中連携会議や合同研修会を行い、一貫教育に関わる情報共有や今後の方向性を見出しました。また、一部の教職員の兼務発令による指導体制の充実や授業協力、合同学習の実施、合同行事の検討など、地域全体で子どもたちを育てる取り組みを進めています。

各教科・各学年の授業においては、小中の教員で互いに保有する教員免許の専門性を生かし、9年間の学びの連続性を踏まえた授業展開を行っています。

今年度は、本校から数学担当の竹澤教諭、体育担当の工藤教諭、理科担当の奥野教諭、英語担当の紙谷教諭が小学校の中・高学年の授業を担当し、小学校からは高橋教諭が中学1年生の英語を担当しています。他に、今年度以前より小中を兼務していた教員も数人おり、小中相互の乗り入れ授業の充実度も高まってきました。このことで、小中の接続がスムーズになり、教員による互いの児童生徒理解も深まってきました。児童生徒にとっては、小中の教員が相互に関わることで、中1ギャップの緩和にもつながっていると思います。

小中一貫校として枠組みを越え、各学校の教職員の共通理解と、保護者や地域の方々の支援を受けながら、義務教育9年間で子どもたちの「生きる力」を小中一体となって育てていきます。



火災・救急・救助 119 まとい

消防瓦版 纏 No.392

富良野広域連合富良野消防署占冠支署 (56) 2119

春の全道火災予防運動実施！！

4月20日から4月30日までの11日間にわたり、「春の全道火災予防運動」を実施しました。この運動では、火災予防思想の一層の普及を図り、火災の発生を防止し、火災による死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的としています。占冠支署では、期間中における毎日の火災予防広報、防火対象物立入検査、住宅用火災警報器の設置状況調査を行いました。

今年度、該当となり調査を実施した世帯は28世帯となっています。ご協力頂きました世帯の方に厚く御礼申し上げます。住宅用火災警報器は火災の発生をいち早く知る手段となり、自分自身の命を守ることにつながります。いざというときに正常に作動するよう半年に一回を目安に点検するようにしましょう。また、交換の目安は設置から10年となっているので、ぜひ、一度ご家庭の住宅用火災警報器を確認してください。

救急出場状況

(4月分)

急病 3件 (3人)

4月計 3件 (3人)

累計 46件 (43人)

※ () 内は搬送人員

点検方法

ボタンを押す

ひもを引く

また定期的に点検を！

救急車の安全対策



新型コロナウイルス感染拡大は救急業務にも大きな影響を与えています。救急車は前側の運転室と後側の患者室に分かれています。ほとんどの救急車で隊員が行き来できる構造になっているため、飛沫も飛んでしまいます。これまでは、簡易的な間仕切りとしてビニールを設置してきましたが、設置に時間がかかり途中で剥がれ落ちるなどの課題がありました。そこで「巻取り式シート」を活用することで開閉動作や消毒の作業も容易になりました。

私たち救急隊は、通報を受けた時点では詳しい病状は分かりません。到着してみても発熱や咳、味覚や嗅覚の異常などがあると新型コロナウイルス感染症を疑わなければなりません。全ての救急出動に全身防護衣で出動するには資器材の確保も難しく、活動中の機動性や疲労度も格段に違います。

今回の間仕切りのように試行錯誤しながら、傷病者とご家族、関係者の皆さんを安心して医療機関まで搬送できるようこれからも工夫をして活動していきます。

日頃からの訓練

令和3年5月12日、富良野広域連合消防本部 佐川警防課長による三連はしご操法及び空気呼吸器操法の査閲が実施されました。

天気にも恵まれ、若者たちの号令が高らかに響いていました。

コロナ禍においても消防活動が止まることはありません。

これからも日々の訓練を継続し、いざという時にこれまでどおりの活動ができるように頑張ります。

